

鶴見区区政会議 平成29年度第1回こども教育部会

1 日時

平成29年6月26日（月） 19時02分～20時22分

2 場所

鶴見区役所 4階 403会議室

3 出席者

（委員）

西岡部会長、真鍋副部会長、前川委員、宮田委員、猿渡委員

（区役所）

河村区長、野村副区長、田中こども・教育担当課長、嶋原保健福祉課長、

松井子育て支援・保健担当課長、貴田子育て支援担当課長代理、

日下保健福祉課担当係長、杉本地域活動支援課担当係長、石川区政企画担当係長

4 議題

（1）平成29年度鶴見区区政会議の進め方について

（2）平成29年度鶴見区運営方針自己評価について

（3）その他

5 議事

開会 19時02分

○杉本地域活動支援課担当係長 皆様おそろいではないんですが、定刻を過ぎましたので、ただいまから鶴見区区政会議平成29年度第1回こども教育部会を開会いたします。

本日は、夜の遅い時間に、また、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、地域活動支援課担当係長の杉本でございます。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、河村区長からご挨拶を申し上げます。

○河村区長 皆さん、こんばんは。今日は第1回目のこども教育部会ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。ご案内申し上げますように、平成28年度の事業の振り返りを行いまして、29年度の事業実施につなげていきたいと考えております。項目ごとに、またご説明させていただきますけれどもよろしくお願ひいたします。

それと、本題とは少しそれるんですけども、今日はお手元につる魅力検定という資料をお配りしておるかと思うのですが。昨年度つる魅力向上部会を中心に、区政会議でもいろいろアイデアをいただきまして、今年度つる魅力検定というのをやっていこうというふうになっております。裏にサンプルをつくっているんですけども、子ども向けと大人向け2つの検定を年末年始を中心にやっていきたいなと思うんですけども、問題のほうをぜひ委員の皆様方にもご提案いただいて、「発見！！つる魅力」でありますとか、ホームページに載っていることは当然のこととして、それ以外、委員の皆様方が知っている鶴見区、私が知っている鶴見区の秘密みたいなものでも結構ですので、何かそういう、鶴見区にかかわる問題を、ぜひ何本でも結構ですんで、ご提供いただければありがたいなというふうに思っております。詳細はそこにお書きしておりますので、またご覧いただければと思います。

あと一点は、今、市のほうで、地域活動の活性化とかいったことを題材にした、区政改革のプランをつくっております。今、パブリックコメント中なんですけども、その中でも幾つか区の運営方針に反映できる部分がございますので、それはまた成案ができましたら皆様方のほうにもご報告をさせていただきたいと思っております。

それでは今日はまた長時間に及びますが、よろしくお願ひいたします。

○杉本地域活動支援課担当係長 それでは早速ですが、これより議事進行を西岡部会長にお願ひいたします。部会長、よろしくお願ひします。

○西岡部会長 今日皆さん、遅い中、大変な時間ですけども、またよろしくお願ひ

したいと思います。この区政会議というのは皆さんもご存じだと思いますが、これがこれからの鶴見区に反映されていくということは、一番我々にとってはうれしいことだと思うので、我々の意見がどんどん出てきて、そして区役所のほうでやっていただくということで、私らこども教育部会ということなのですが、子どもたちが住みやすい鶴見区、地域をめざしていきたいと思いますので、どうかご協力よろしくをお願いいたします。

それでは本日初めての部会ということで、よろしくお願いいたします。

早速ですが、議題１、平成２９年度鶴見区区政会議の進め方について、事務局から説明をお願いいたします。

○杉本地域活動支援課担当係長　それでは平成２９年度の鶴見区区政会議の進め方について、資料に沿ってご説明いたします。資料１、右肩に資料１の、平成２９年度鶴見区区政会議スケジュール案をご覧ください。

まず、本日の第１回部会におきまして、平成２８年度鶴見区運営方針の自己評価に関するご意見を、部会ごとに頂戴したいと存じます。第１回部会后、７月中旬ごろに全体会を開催し、各部会で出された意見を共有化するとともに、こども教育部会以外の項目につきましても、大局的な見地からご意見をいただきたいと考えております。

次に、９月の第２回部会では、来年度に新たに作成する、区政運営の長期指針である、将来ビジョンについての区長原案をご提示するとともに、平成３０年度の区運営方針を作成するにあたっての方向性を部会ごとに示し、委員の皆様のご意見をいただきたいと考えております。

現委員の皆様方の任期は平成２９年９月３０日までとなっておりますので、１０月には新しいメンバーの皆様による全体会を開催し、平成２９年度の区運営方針及び予算の説明をさせていただく予定としております。

その後、１１月の第３回部会、１２月の第３回全体会におきまして、平成３０年度区運営方針の素案、及び将来ビジョンに対するご意見をいただきたいと考えておりま

す。

年度終盤の2月には、第4回全体会として、区政会議でのご意見を受け、策定した区運営方針案、及び予算案、将来ビジョン案についてのご説明をさせていただく予定としております。

平成29年度の鶴見区区政会議の年間スケジュールについての説明は、以上でございます。

○西岡部会長 ありがとうございます。今の説明についてご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ないようでしたらまた後でも結構ですので、とりあえずそれでは次の議題に進みたいと思います。

それでは議題2、平成28年度鶴見区運営方針、自己評価について、事務局から説明をお願いします。

○日下保健福祉課担当係長 では、28年度鶴見区運営方針、自己評価について、ご説明させていただきます。平成28年度鶴見区運営方針の自己評価についてでございますが、この自己評価は、運営方針に記載の戦略と、具体的取組みにつきまして、それぞれの目標の達成状況を点検し、有効性を評価することにより、必要な施策の改善、見直しを行い、平成29年度の取組み、次年度の運営方針、予算編成への反映を図ることを目的に行っております。

それでは区役所が行いました自己評価のご説明の前に、本日も配りしております、委員評価シートのご説明をさせていただきます。

本日、運営方針について、区役所が行った自己評価についてご説明させていただきますが、昨年度に引き続き今年度につきましても、運営方針に記載している具体的な取組みについて、委員の皆様から直接評価をいただきたいと考えております。つきましては、本日の部会での説明をお聞きいただいた上で、この委員評価シートにより、委員の皆様方ご自身で、具体的取組の評価を行っていただきたいと考えております。お忙しい皆様方に、いわば宿題をお願いするようなことで、大変恐縮ではございます

が、何卒ご協力いただきますようによろしくお願いいたします。

委員評価シートの記入の仕方をご説明しますと、左の欄に区役所としてのめざす状態を記載しております。その右欄に、具体的取組として、28年度中に実施した取組みを載せておりますので、そのそれぞれの取組みについて、記入例にありますように、具体的取組がめざす状態の実現について、とても有効であったと思う場合は「◎」、やや有効であったと思う場合は「○」、有効・有効でなかったのどちらとも言えない場合は「△」、有効でなかったと思う場合は「×」、を記入していただき、具体的取組に対するご意見がある場合は、一番右の欄にご記入ください。なお評価に困られるような項目については、横棒、「—」を入れておいてくださっても結構です。

評価は、部会が主管する経営課題を中心に、わかる範囲でご記入いただければ結構ですので、お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。ご提出期限は、お忙しい中申しわけありませんけれども、7月10日、月曜日までとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、区役所が行った自己評価と、28年度中に実施した具体的取組のうち、主な項目について、ご説明いたします。なお資料3といたしまして、大阪市統一様式へ自己評価を追記いたしました、平成28年度鶴見区運営方針を送付いたしておりますが、詳細にわたりますので、本日は部会所管の課題につきまして、資料2、平成28年度鶴見区運営方針実績・評価により、各事務を担当しております係長よりご説明させていただきます。

ではまず、私のほうから順番にさせていただきます。1ページめくっていただきまして、ページ1、経営課題3、次世代育成に向けたまちづくり、ということで、3-1、安心して子育てできる環境づくり、でまずこのめざす状態としまして、地域ぐるみで安心して子どもを産み育てられる環境の整備が進んでいると感じる区民の割合を増やす。戦略としまして、地域の関係団体・関係機関と連携し、区民が安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めていく、ということで、次のページ、2ページ

をご覧ください。子育て支援の充実としまして、計画としましては関係機関等と連携し、待機児童の解消、子育て層の交流の場の設定及び児童虐待防止など、子育て支援に取り組むという計画を立てておりました。目標としましては、子育てについて楽しいと思うことのほうが多いと感じる保護者の割合を、65%以上と設定いたしました。実績といたしましては、その右側になりますが「愛Loveこどもフェスタ」の開催を1回、「つるみっ子ルーム」の利用率が97%ございました。

地域や関係者等と連携した児童虐待防止啓発活動の実施といたしまして、20回実施いたしました。児童虐待防止学習会、講演会等の開催ということで、3回開催いたしました。

関係局との保育ニーズ検討会議を2回開催いたしました。

保育環境の充実に向けた園への働きかけということで、26保育所に働きかけを行いました。

次の3ページにおきましては、事業実施時の様子、「愛Loveこどもフェスタ」と「つるみっ子ルーム」事業の写真でございます。

次、4ページを見ていただきまして、評価といたしまして、子育てについて楽しいと思うことのほうが多いと感じる保護者の割合を、目標としまして、65%以上に設けておりましたけども、結果として、69%でございました。これにつきましては、まだ3割の保護者の方は、子育てについて楽しいと思うことのほうが多いと感じていないと思われまことから、子育てに対する不安感や負担感をもつ家庭に対する支援を、より充実する必要があると考えております。つきましては、29年度の取組みとしましては、子育て層の交流の場の設定など、子育て支援政策を実施する。関係先と連携し、児童虐待ケースに対する対応を行うとともに、児童虐待の早期発見と防止のため、啓発活動に取り組む。保育ニーズを勘案し、関係先と連携を図りながら保育環境の整備に努め、待機児童の解消に取り組むという形で考えたいと思っております。自己評価につきましては、一番後ろのページから1枚めくっていただきました21ペー

ジになりますけれども、経営課題全体としての評価総括ということで、安心して子どもを生み育てられる環境づくりには、地域、関係機関との連携を推進する必要があると考えております。これにつきましては、今年の3月から7月にかけて、各子育てサロンごとに、各地域の出生等子どもに関する状況を今、お伝えして回っております。その時にサロンを運営するにあたってのご意見等を伺っておりますので、この頂戴した意見等を取りまとめて、29年度の後半から30年度にかけて、いただいた意見を反映していきたいと考えております。

次に、児童虐待防止に向け、関係機関と連携を図るとともに、啓発活動を推進する必要があるというふうに考えておりますので、区政会議でもいただいた意見を参考に、主任児童委員と一緒に、各地域の商店等に、ポスターの掲示ですとか、チラシの配架等お願いしていきたいと考えております。

次に、保育ニーズの高まりに対しては、関係局と連携し、保育環境の充実に努める必要があると考えております。これにつきましては、今年の4月から小規模保育事業所が2園開園しておりまして、秋につきましては、本園1園が開園する予定になっております。また来年30年4月におきましても、小規模保育事業所が開設される予定でございます。また、29年度につきましては、9月に保護者と施設が直接お話をしてもらえる場を設けたいと思っております、「鶴見区幼稚園、保育所等情報フェア」というのを開催したいと考えております。これにつきましては、各園にご協力をいただこうと思っております、今各園とも調整している最中でございます。

以上でございます。

○西岡部会長 ありがとうございます。今の説明についてご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、経営課題3-2の、子ども青少年の健全育成、3-3、区役所による教育支援の説明に移らせていただきます。

○杉本地域活動支援課担当係長 それでは5ページ、3-2、子ども青少年の健全

育成について、ご説明させていただきます。家庭、学校、地域住民が一体となって、社会性を身につけ、心身ともに健全に育つ青少年の割合を増やすことをめざす状態とし、下記に記載しております2点を戦略としてさまざまな取り組みを行いました。6ページをお願いいたします。具体的な取り組みとしましては、地域と連携した青少年の健全育成の取り組みとしまして、まず高校軽音ライブクリーンプロジェクト、次の7ページに写真等を掲載しております。あわせてご覧ください。こちらは、5月1日に鶴見緑地で開催いたしました、鶴見緑地の噴水前、展望塔前、花さじきの3会場を舞台としまして、区内3高校始め、18校36組の軽音楽部に日ごろの音楽活動の発表の場を提供しました。また、休憩時間を利用して、出演者全員で鶴見緑地公園内の清掃活動を行い、青少年の健全育成を図りました。

次に青少年健全育成鶴見区民大会ですが、こちらは7月3日に区民センターで開催しました。1部で大阪体育大学の曾根純也准教授に、未来を変える子どもたちからのスポーツ習慣というテーマで講演いただき、2部では青少年の発表の場として、空手やなぎなたの演舞を行いました。

次に、子どもの環境ととのえ隊ですが、こちらは8月9日に青少年指導員、福祉委員、鶴見警察、区役所職員など約50名で、鶴見緑地公園内の夜間巡視を行いました。

次に青少年カーニバルですが、こちらは10月10日に鶴見緑地で開催しました。午前中は、メチャハッピー祭の会場として15チーム、午後からは区民のステージとして20チームに出場いただき、青少年指導員、福祉委員、子ども会、PTA、生涯学習推進員の皆さんとともに実施運営しました。

次に8ページをお願いいたします。

評価ですが、各事業が青少年健全育成としての有効な取り組みになっていると回答した参加者の割合を、65%以上という目標に対しまして、88.7%という結果でした。しかし、中高生が日ごろの活動成果を発表する場が少ない、また家庭、学校園、地域と連携し、継続的な取り組みが必要であるというふうに考えております。そこで2

9年度の取組みとしましては、まず高校軽音ライブクリーンプロジェクトの会場数を、昨年度実施しました3会場に、附属展示場を加えまして、4会場に増やしまして、より多くの高校生の活動発表の機会を提供し、実施いたしました。こちらは5月7日鶴見緑地で実施しました。また、会場数を増やしたことによって、平成28年度の18校36組の参加に対しまして、29年度は24校48組の参加をいただきました。また公園内の清掃範囲も拡大して、クリーン活動を実施いたしました。

次に青少年健全育成区民大会ですが、2部の青少年の活動発表の場。こちらを中学校吹奏楽部が活動を発表できる場として提供をします。こちらは7月9日の日曜日に開催を予定しております。

続きまして9ページ、3-3、区役所による教育の支援についてご説明させていただきます。区役所が学校や地域、保護者の教育行政に関するニーズを把握し、学校と連携した取組みができていることをめざす状態とし、下記に記載しております2点を戦略として、さまざまな取組みを行いました。10ページになります。具体的な取組みとしましては、教育支援の充実としまして、区政会議の部会や、教育行政連絡会、学校協議会などの会議の場だけではなく、小中学校への学校訪問など、学校との情報交換を密に行ってまいりました。そういった意見交換の中で、校長戦略支援予算を活用した小中学校の支援が、特に力を入れた取組みであります。校長戦略支援予算の詳しい内容につきましては次のページになります。11ページです。校長戦略支援予算、590万円。平成28年度から、区長（区担当教育次長）が教育行政にかかる事業を企画立案して執行できる、校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）が設けられ、学校のニーズを踏まえた施策を各区で実施することとなりました。

平成28年度の具体の取組みとしましては、まず教育活動サポート事業、こちらは課外活動のサポート、児童生徒のサポートとなります。小中学校あわせまして411万8,000円。次に漢字能力判定に向けた取組み支援事業、こちらは小学校のみの取組みとしまして26万4,000円。次にICT機器の購入、こちらは中学

校への購入費としまして、151万8,000円を支援しました。これらの支援によりスムーズな教育活動の展開や、学力向上に向けた取り組みが進められたという意見を校長会、教頭会等でいただいております。今年度につきましても、引き続き教育活動サポート事業、漢字能力判定に向けた取り組み支援事業、ICT機器購入と、後ほど説明させていただきます、小学校での英語活動の取り組み支援を行ってまいります。

次12ページをお願いいたします。次に評価ですが、学校や地域保護者の意見が反映する取り組みが進んでいると思う学校協議会委員の割合、50%以上という目標に対しまして89.5%という結果でした。具体的な意見の反映としましては、学校協議会の委員の方から読書の取り組みを強化してはどうかというご意見をいただきまして、朝の読書時間を設定した学校があります。また、体力向上の取り組みとしまして、後ほどご説明させていただきます、夢・未来創造事業として、ミズノさんの協力を得まして、走り方教室というのを実施しておりますが、ボールの投げ方や幅跳びの方法も教えてもらえないかというご意見をいただきまして、今年度はそれらの教室も実施していきます。

また、小中学校に在籍する発達障がい等のある児童生徒に対して、サポーターを配置し、学校生活における行動面を支援しておりますが、学校からの申請に対して十分な時間を配置できていないという状況でございました。そこで、29年度は、小中学校に配置している発達障がいサポーターの稼働時間を拡充し、学校生活を支援しております。予算額及びサポーターの配置時間ですが、平成28年度が、約200万円に対しまして、平成29年度は、約倍の400万円を予算配置し、サポーターの配置人数は、平成28年度の25人に対しまして、6月16日現在なんです、29年度は現在41名を配置して、児童生徒のサポートを行っております。

次に14ページ、お願いいたします。次の具体的な取り組み、異文化英語に親しむとしまして、こちらは小学生対象の異文化交流を4回。それから中学生と留学生の英語による交流事業を5回実施いたしました。次のページに写真を掲載しております。

16 ページにいていただきまして、次に評価ですが、英語や外国に対する関心が高まったと回答した参加者の割合 60%以上という目標に対しまして、98.3%という結果でした。参加者アンケートの結果でもわかるように、参加者からは好評であったんですが、参加者が毎回 15 名程度と少なく、成果を享受できるのは一部の子どもに限られていることから、29 年度の取り組みとしましては、平成 29 年度から小学校低学年においても、英語活動が開始されることを受け、中学生英語交流授業の講師による、小学校での英語活動の取り組みや、英語教材、英語の絵本や DVD などを購入するなど、小学校の授業における英語活動の積極的な展開を図っております。また、青少年カーニバルと、総務課の魅力創造担当が実施しております、鶴見ワールドフェスタと同日開催し、より多くの子どもたちが異文化や英語に親しめるような取り組みを行ってまいります。

次に 18 ページです。具体的な取り組みの、学校と社会を結ぶとしまして、こちらは、青少年夢未来講座の開催、9 校、のべ 99 回を実施いたしました。次のページにその様子の写真を掲載しております。

20 ページですが、次に評価となります。夢・未来創造事業を通して、興味関心が高まったと回答した参加者の割合 60%以上という目標に対して、96.0%という結果でした。しかし、企業等が出前授業を実施できる回数に限りがあるため、学校からの要望に対して対応できない場合があるという課題があるため、29 年度は、協力企業を増やしたり、新たなメニューの事業を展開できるよう、企業等に働きかけ、より多くの児童生徒が体験できるように取り組んでおります。具体的には、新たな協力企業ですが、大阪ガス、汎愛高校のダンス部、それから鶴見消防署にご協力いただき実施しております。また新たなメニューですが、先ほど教育支援でもご説明させていただきましたが、ミズノさんには走り方教室だけではなく、ボールの投げ方や、幅跳びという新たなメニューを追加し、実施しております。

最後 21 ページ、経営課題。全体としての評価総括、自己評価ですが、一番下にな

ります。次世代を担う子ども・青少年が将来の夢を膨らませ、健やかに成長できるよう家庭、学校、地域が連携を図り、継続的に取り組んでいくことが必要であるというふうに考えております。

以上でございます。

○西岡部会長　ありがとうございます。今の説明についてですが、ご意見ございませうでしょうか。質問でもいいと思いますんで、意見と言うとなかなか言いにくいかもしれませので。

○宮田委員　先ほども言われましたように、やはり参加の人数が少ないということに関して、これからどういうふうに取り組んでいこうと思っておられるんでしょうか。

○杉本地域活動支援課担当係長　非常に参加者からは好評だったのですが、参加者が少なかったので、学校のほうで英語の活動というのが始まるので、昨年度、英語の交流事業でやっておられた講師を、小学校のほうに来ていただいて、小学校で英語活動の取組みを広げ、取り組もうと。ですので、イベントの形にするのではなくて、学校の授業の形で、英語に興味をもってもらいたい。

○宮田委員　今、高学年がやっていますよね。それと同じようなことを低学年から入れていくということですかね

○杉本地域活動支援課担当係長　そうですね、はい。

○宮田委員　そうすると、子どもたちの夏休みが短くなったり、教科書の量が多くなったりというのも出てくると思うんですけども、そういうのも踏まえて全般的に1年生から6年生まで全部に入る、1年間。じゃなしに、反対に、今年度はこの学年とかそういうふうな形で。

○杉本地域活支援課担当係長　学年につきましては、各学校のカリキュラムでお任せしております。

○田中こども・教育担当課長　1年生から3年生は、特に低学年は英語活動ということで、教科じゃないんですけども、特に大阪市の場合は、1時間とかそういうコマ

ではなく、短い時間を使って、例えば朝の活動とか、昼休みのあととか、そういう短い時間の中で、英語を例えばDVDとかそういうものを流して触れるとか、あるいは何かそういう絵本を見せるとか、そういう形で取り組む形をしております、ですから授業時間を増やすっていうことじゃないんですけども、そんな形で小さいときから英語に触れていくということをめざしているところです。

○宮田委員　ということは、前からずっとやっている朝の5分、10分を使って読み聞かせをしている時間帯がありますよね。それと同じようにやっているということでしょうか。でないとやっぱり子どもたちもね、余りにも増えてしまうとね、やはりそこには差が出てくると思うんですよ。そうなったときに、どういうふう to 受け皿というとおかしいんですけどね、やはりスタートラインにみんなが立てるようなこと、ちょっとそこまでフォローしていただけたらありがたいかなと思うんですけどもね。

やはりどうしても格差が出るし、興味のある子や、塾に行っている子は、英語もペラペラでしゃべる子もいてるやろうし、全然行ってない子もいてるだろうし、そこから入って、いつも言われているように、異文化を学ぶことはすごく大事なことになってくると思うので、鶴見区も住んでおられる方も多いし、うちらでも小学校にいてはりますんで、その辺のことを考えると、やっぱり子どもたちができるだけすっと入れる、と言うと変な言い方なんですけども、だから音楽とかDVD使って、興味のあるようになっていう、やっぱりそこを重点的にやってもらってその辺をちょっとフォローしていただけたらありがたいかなと思います。

○田中こども・教育担当課長　いろんな教材なんかも、うちのほうで支援できるものは、学校の要望を聞きながら子どもの使いやすいものとか、学校から要望あれば、それに対しても、また支援していきたいと思っていますので、引き続きやってまいります。

○西岡部会長　何かございませんでしょうか。私から。高校軽音ライブクリーンプロジェクトの事業が、会場を増やして、人数的にもかなり子どもたちも増えたという

ことも聞いておるんですが、今後もこれを増やすとかいうような考えは、まだ今のところ、場所的にやっぱり無理なんかなというのはあるんでしょうか。

○杉本地域活動支援課担当係長 増やすに越したことはないんですが、離れた場所に会場を増やすと、一体感というのもなくなってくるところもありまして、そこはちょっと検討中なんですけれども、今後増やすとしても、もう一つ増やすか増やさないかっていうところで、検討しているところであります。

○西岡部会長 それと、今まで役所と学校との連携いいますか、情報交換の場ってそんなになかったと思うんですけどもね、それが、今かなり増えているように聞いております。それによって、学校のほうもかなりいろんなサポートしてもらって、皆さんご存じだと思いますけれども、職員の数が足りないというのがかなりあるんです。各学校で。その中で、先生らが、時間のやりくりをしてやっているところを、役所のほうから、そういうふうなサポート的なことをやっていただくということで、かなり助かるというようなことを聞いております。

それと、学校によってなのですけども、いろんな先生がいらっしゃいます。それがやっぱり校長先生の意見として言ってしまうと、やはりちょっと問題がというのも聞いています。そこは、やっぱり役所としてやっていただいているというので、校長先生からしたらすごく助かっているんやいうのも、かなり耳入れてますんで、その辺り今後力を入れてあげていただきたいと思うんです。いろいろな面で変わっていつている中なので、教育委員会のほうも委員会の考え方というのが、学校に押しつけのような考え方をもっているところもありますんでね、その辺はやっぱりちょっと今までの形式と違うといいますかそういうような形で、役所がもう少し一歩でも入っていただいたら、各校よくなっていくんじゃないかというのは、僕もちょっとPTAをやっていて、思うようなことが今あったので、それまたよろしくお願ひしたいと思います。これにはどんな目標をとというのはなかなか難しいと思うんですけども、今後入れるところは入っていつてもらいたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○田中こども・教育担当課長 サポーターなんかも学校のほうからの要望もありまして、予算的にも今回かなり増やしていますので、それで少しでもご支援できたらと思うんですけども、またいろいろな声を学校協議会かなんかでもまたお聞かせいただきまして、できることを我々もやっていきたいと思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。

○西岡部会長 学校協議会の中で意見を出してもらったらそれがまあある程度の検討案件になりますんでね。

○田中こども・教育担当課長 我々も学校協議会に参加していますのでね、いろいろなことをまたお聞かせいただければと思うんですけども。

○西岡部会長 地域の人でもまだ学校のそういう事情とかも知らない方いらっしゃるというのもあるんで、これは学校によって一校一校全部違うと思います。だからその辺を把握してもらって、ここの学校はこういう形なんやなというところもかなりありますんで、その辺よろしくお聞かせしたいと思います。

それと子育てに関係することですが、今保育園のほうもちょっとずつ増えていると思うんです。これも今までからいろいろお話は聞いているんですけども、待機児童いうような形で、鶴見区の状況としてはどれくらいか把握できている範囲で説明してください。

○松井子育て支援・保健担当課長 待機児童の定義はいろいろあるんですけども、現在公表しているのは今年4月で11名。去年4月は7名ということで、4名増えております。

○西岡部会長 きょうだいがいたらやっぱりそこに行きたいと思いますよね。

○松井課長 やっぱり近いところ、ここだけしかもう嫌や、とかいうてる人とね、どこでも5カ所、6カ所を希望されるケースもありましてね。待機児童数と言いますと11名ということになるんですけども、でも実際に待たれている方は今現在で、100名以上はおられます。

○西岡部会長　　待っている方がね。

○宮田委員　　いつもこれ思うんですけど、全体的に待機児童を減らすって目標をゼロとか言われるんですけども、入る前も問題がありますやん。簡単に言ったら、保育所に入れたい、でも働いてなかったら入れない。ポイント制みたいになっているんですよね。それで振り落とされてしまって、男女参画でお母さんも皆仕事しましょう言われてその時点でも入れなくなる。

　　今度入ったら入ったで、いつも言うんですけども、私も孫もっているからわかるんですけど、37度5分になったのでお迎えに来てください、で、前も言ったと思うんです。やっぱり病児保育、よその区はあると思うんですけども、城東区でしたかね、中野こども病院がやってはるんですけど、やっぱり鶴見区は前もないって言われたけど、やっぱり親が迎えにこられる状態のその時間帯、ある程度仕事もされていてその仕事の内容にもよると思うけど、すぐに帰れない場合とか、また、近所の人が見てくれるというのならば行けるかもわからないんですけども、だからうちも娘、保育所申し込んだときに、もし熱があったら迎えに来てくれる人はいますかって言われたと言っていましたけどね。で、母がいているんで来ますと伝えたら、本当に去年は何回も電話がかかってきました。

　　やっぱりそんなんも含めてもうちょっと鶴見区で、子育てが楽しいとか、子どもを育てるっていう、区を挙げて育てるっていう観念からいくと、ちょっとそこにはお薬をあげられる、せめてそのお母さんが定時に帰ってくる間まで見ておられる、まあ簡単に言うと薬を飲ましたりする人がおればいけるわけですからね。そういうのもちょっと考えていただいたらありがたいかなと思うんです。

　　それともう一つは、子どもの貧困ですね。やっぱりそれはあると思うんです。昔みたいに世話やきのおばちゃんがおったり、おっちゃんがおって、声をかけたりとか、大丈夫なん、とか言うのもないやろし、本当に隣は何をする人ぞ、みたいなのところがやっぱりあるのでね。

子ども会をやってはりますけども、子ども会にも入ってない人もおいでになるし、昔みたいに私らのときやったらもう強制的に入っていたから、行く、行かないは別であつても、子どもがいけへんかつても親がお手伝いするとかいって大体顔もわかつてたんやけど、それもなくなつてきている。だから今は各連合の町会ごとに全部子ども会が立ち上がつてないところもあります。横堤地域でもビープレイスはすごい人数が多いから子ども会も立ち上がつていますが、もうだんだんこうなつていたので、通つていてる子を見ていたつてわからなくなるとか、やっぱりそんなん見てるとその子どもが虐待されてるとか、前にもあつたと思うんですけど、夏休みになつて9月に学校へ来たらげっそり痩せているとかいうのもあるので、そういうのも含めて、やっぱりそういう政策もちょっと考えていただきたいかなつていう部分はすごくあるんです。

それはまあ高齢者に対しても一緒やと思うんですよ。高齢者の虐待とか、そういうのも聞きますし、いろんな部分でやっぱりこう1人で孤独死される方もあるというのを聞くのと一緒で、子どもたちと一緒に、そんなんを含めて、鶴見区でいつも言われるように、住んでよかった鶴見区と言われるような施策をちょっと考えていただきたいというのが希望でございます。すみません、よろしくお願ひしときます。

○松井子育て支援・保健担当課長 まず病後児保育なんですけども、鶴見区には1か所あります。病児保育は、また今回も公募は出しているんですけどもなかなか難しい状況です。私も昔ですけども子どもを9年間預けていて、その37.5度の壁つていうのがもう、かなりしんどい思い出の記憶があります。働いていて一番その辺が親も頼られへん世帯とかもいてはるところが一番危惧しているところなのかなというふうに思っています。

○宮田委員 だからさっきも言ったように、やっぱりこう昔は班であつたり、町会でいろんなことが見れたんですけども今それが無いので、その辺の拡充もちょっと考えていけたら、ちょっとしたことでもクリアできるのかなつて思うんですけどもね。

○松井子育て支援・保健担当課長 次に子どもの貧困ですけども、これ、鶴見区で

も子どもの貧困対策チームっていうようなものをつくって、何がどうできるのかという
ことで、今、案を練っているところなんですけど、また宮田委員さん、個別にもし何
かありましたらですね、またご相談とかさせてもらって施策に反映できるもの、まあ
いろいろできるもの、できないものがあると思うんですけども、それをまた参考にお
聞かせいただいたらありがたいです。

○宮田委員 はい、お願いします。ありがとうございます。

○西岡部会長 猿渡委員、何かありますか。

○猿渡委員 質問なんですけども、評価総括のページ、21ページに、何度も地域
関係機関っていうのが出てくるんですけど、基本的なことで申しわけないんですけ
ども、何をもって地域関係機関かちょっと、定義やったりとか、具体的な名称であつた
りとかあれば、教えていただきたいと思います。

あと3点目に関しては、関係局になっているので、どこを指しているのか、また教
えていただきたいと思います。お願いします。

○日下保健福祉課担当係長 地域関係機関というところは、一つとしましてここで
思っているのは子育てサロンをイメージしております。サロンというのは各地域で民
生委員さん、主任児童委員さんが中心になっていらっしゃる場所が多いので、つま
り地域の担当をしてはる方が多いかなと思います。

あと、私ども子育ての関係ですと、例えば子ども子育てプラザですとか、子育て支
援センターですとか、それぞれ、やはり子どもさんが来て、集まって遊べる場所を
されているところもございますね。そちらともいろいろ連携させてもらってという形
をとっておりますので、そこも関係機関にあたるかと思えます。それと3番目の、載
っています関係局ということになるんですけど、保育ニーズの関係になっていますので、
こども青少年局がメインという形になるかと思えます。

虐待も同じく、こども青少年局になります。

○西岡部会長 前川委員、何か。

○前川委員 全体として、目標が60と65と2つ出てきているんですが、何でこの60と65が私にしてみたら70にならへんのかなという単純な質問が一つと。

それと、11ページの校長経営戦略支援予算で、実は、私も知り合いがおりましたもんで、放課後の元気アッププログラムに参加させてもらったんですけども、ただ、参加して子どもたちのために本当になっているのかなという、多少の疑問があったんですね。というのは、参加させてもらったときに、放課後の勉強会ですけども、子どもたちが手を挙げて、手を挙げるまではじっとしておいてくださいと。要するに、質問があって、それに答えてあげてくださいと言われて、そのとおりにやっていたんですけども、ところが、本当に勉強したい子が何人かおったときに、集中して個別授業みたいになってしまうんですけども、そういう形も可能なのではないかなと、その責任者の先生にお伝えしたんですけども、いや、まあまあ原則は自習活動で、手を挙げるまで待っておいてくださいということで、せっかくこういう区長さんが校長さんに向けてお金を出されるというのは、非常にいい予算だなと思うんですけども、これもう少し、何かもっとうまくいくようなお金の、来てもらっている方々を、もっとうまく、言葉悪いですけど利用できる方法があるんじゃないかなと。で、それを、今度は区の方とかが、もちろん区長さんが、校長さんにこんなしたらどうやろってというような形で持ちかけていただくのもいいかなというのが、私の経験からでございます。ただ、子どもたちは一生懸命、静かに勉強やっているのは事実です。

それと、もう一つです。これは前回、個人的に杉本係長にはお話ししたんですけども、12ページの、発達障がいサポーター、この名称をそのままお使いになってるとお聞きしたんですけども、これ例えば、親からすると、この言葉で、じゃあうちの子どもを発達障がいサポーターの支援を受けに行きますわというふうに言えるのかなと。もうちょっと、例えば、教育サポーターとか、もうちょっとほわっとした名前にされたらいいんじゃないかなと、個人的な感想です。

それと、もう一つこの発達障がいサポーターの資格はどんな資格の方がこられてい

るのかっていうことだけ質問です。

以上です。

○松井課長 一番最初の質問ですけれども、65%、60%っていうのが多分教育のほうであったんですかね。これは、目標を立てるときに、今の現在の実績とかその辺も踏まえて、余り高い目標にしてもいけないし、でもあまり低い目標もいけないし、その辺のところね、ここまでの仕事をすると、これくらいまではいけるという、私もその辺を一応設定してやっている。だから各項目でいろいろ変わってくる。来年度以降、これが目標達成されたということでしたら、当然、またそれはハードルも一つあげるといような形で、一つ一つ、違う目標値を設定しています。

○杉本地域活動支援課担当係長 まず、校長戦略予算の件なんですけど、元気アップ事業とはまたちょっと違うんです。クラブ活動とか校外活動とかについて、教員と一緒にになってサポートして、付き添っていくっていうような事業ですので。その点が一点とですね。

あと、この校長戦略予算の使い方なんですけど、いろんな場面で、教育行政連絡会とか校長会ですとか、それ以外にもいろんな案を何度も出し合って、学校として一番望まれる形で、当然こちらからも提案はするんですけれども、その中で、学校がこういう使い方がいいよということで判断されて、学校長なりの意見で、学校としてまとめた意見であります。

それから、次は発達障がいサポートなんですけど、この名称なんですけども、この事業っていうのは24区に全てにある事業であります。内容や、やり方っていうのは各区の区長マネジメントでっていうところでされているので、鶴見区で29年度で言いますと、24区の中でもかなり充実したサポートのお金を配置しているところなんですけれども、この名称につきましては、24区統一の発達障がいのある児童生徒にサポートするというので、24区統一の名称になっております。

○田中子ども・教育担当課長 補足しますと、確かに事業名としては、予算どりは

こういう形の名称でやっておりますけれども、いざ、学校では障がい特別その発達障がいっていうことを前面に出してその方がサポートするっていうふうな、名称としてあえてそういうことを保護者の前で使うことはないと思います。なかなか名称っていうのは難しいんですけれども、発達障がいサポーターっていうような言い方は、確かに前から委員おっしゃってますように課題ですので、そこは、もう少し何かよい名称ないかっていうのは考えてるんですけれども、またいろいろ工夫はしていきたいと思っています。

○杉本地域活動支援課担当係長 資格とおっしゃいましたが、資格をもっていなかったらサポーターになれないのかっていうような。という趣旨でしょうか。

○田中こども・教育担当課長 それは特に資格がなくてもサポートですので、はい。その子どもについて、横で何か先生の言っていることを伝えるとか、そういうことですので。

○真鍋副部長 私の校区のことで言うと、うちの茨田小学校、結構生徒人数が少ないという話を聞いているんですけど、生野区で新聞に出ていたんですが、12小が4小に統合されるという話も出ていたので、今後茨田小学校もできて20周年ですか、今年。それで、また小学校がなくなるとかそういうのは、ないんですかね。また、茨田南小学校に統合されるとか。

○田中こども・教育担当課長 今のところはね。そういうのは出てないんですけど。

○真鍋副部長 鶴見区だけが、その対象から今、外れているってことになっていきますので。

○河村区長 そうなんですね。一番多いですからね。子どもの数も。ただ特に茨田地域は少なくて。

○西岡部長 これ補足・・・言うと、そういうことになりそうなら、地域を挙げて、教育委員会に子どもの通学路のこれは危ないとか。

○真鍋副部長 今、その通学路に関しては、茨田小学校へ通うのに、不便な通学

路で、今もできた当初とほとんど変わってないので、交通事故もあって亡くなられた方もいるのでね。ちょっとその辺も、いろいろ改善もまたしていただきたいんですけどもね。

○西岡部会長　　それでいくと、教育委員会のほうでは、少し遅くなっています。それはほかの学校でもそんなのあったので。統廃合は難しいね。

○宮田委員　　本当に、町の真ん中言ったら変な言い方なんですけど、福島区なんかでも、全然まんばんで、どないもならないってところがある割には、同じ福島区の中でも1学年だけしかないとか。え、ここで運動会しているのっていう状態で、多分ひょっとしたら、また統廃合あるんちゃうかないう話も聞きますけどね。でも、やはり地域が今言われるように、頑張ったら、校区の見直しいうのもあるんですよ。あれね。そんなんも含めてできるから、やっぱりそんなんも含めて考えて、なくすの前提じゃなしにね、校区の子どもの安全を考えると、やっぱり、そこまず考えていただいて、そこからやっていったら大分違うと思いますけどね。やっぱり住民が言わないと、なかなか声は届きません。

○西岡部会長　　一つの地域に一つの学校いう考え方をしているでしょ。それを変えてしまうと、地域性というか、それがなくなってくるんですよ。だから、ここの地域の子どもがこちらの学校についてというようなことになると、その辺がすごくややこしくなってくる。

○宮田委員　　選択制とはまた違いますからね。選択制はもう自分の意思で行く。

○真鍋副部会長　　まだ先の話かも分かりませんが、新聞に生野区のことが出ていたんで。

○河村区長　　まだレベル感がちょっとね。違うんかなっていうのは。

○西岡部会長　　実際に統廃合になる学校いうのは大分前からそんな話は出ています。今年そやからなるとこ、日本橋なんかは。それはもうはるか前はるか以前からやっているようなころからやからね、新聞報道等に出ているのは。

それは、やっとならないけど、今という形になってくるとね。それこそ地域が、それは結構やから早くやってくれ言うたら別になるんやけどね。その辺は、またいろいろ、子どもたちのことも考えて教育委員会のほうも考えていると思うんで、そう簡単には進まない。

何かございませんか。まだね、もう少しですけども。

あとね、さっき、保育園と保護者の方との場をもつというような事業をちょっと詳しく、どういう形なのか教えてください。

○日下保健福祉課担当係長 一番皆様にイメージしていただきやすいのは、学校の説明会ですとか、就職説明会ですね。そういう会社さんのところに学生さんが行かれて、その会社の説明を受けられると。その会社さんが保育所や幼稚園さんであって、受ける学生さんが、保護者の方だというイメージをしてもらうのが一番わかりやすいかなと思うんです。やっぱり、私たちが保育の受付をしまして、実際に決めるときは、皆さんに保育所、希望しはるところを見学に行ってくださいねっていうのはいつもお伝えするんですけども、希望としては第6希望まで書けます。第1、第2希望くらいまでは皆さんやっぱり行っておられるんです。でも、いざこちらからご案内するときに、必ずしも第1希望、第2希望にならないで、第5希望、第6希望をご案内することも多々あります。そして、また書いてあれば、当然こちらとしては、書いてある保育所については行かれるという意思表示としてとりますので、それでご案内せってもらいと、いざとなつて、とりあえず見学行ってなければ行ってみてくださいねっていう話から始まるんですけども、行ってみたら、いやこんなはずではなかったというような形でお話しになる保護者の方もいらっしゃるんです。

そうなってきたら、せっかくこちらがご案内できると思っても、保護者の方がここやったらやめときますということになると、当然次からの、利用調整のときはマイナス5点がついたりとかっていう形で、やっぱり保護者にとってもよくないですし、でも確かに保護者にとっては、5つも6つもご自身で回ろうっていうのも、小さい子ど

もさん連れて行くっていうのも大変だろうっていうのもございますので、それを保育所さん、幼稚園さん皆さん来てくださいましたら、そこに保護者の方に来ていただきましたら、1回であちらこちらのところを聞いていただけるかなというのがありますので、今回やってみたいと思っております。

ただ保育所さん、幼稚園さんがどれだけ協力していただけるかっていうのはちょっと今わからないところで、皆さん協力してくださいねっていう形でお願いしている状態ですけども、とりあえず、1回そういう形でやってみたいなど。

あわせて、つどいの広場ですとか、先ほど申しました支援センター、子ども子育てプラザというような子どもさんをつれて遊びに行けるような場所もございますので、そういうところもあるよという案内も兼ねて、そこからも来ていただいて、説明していただけたらなと思っておりますし、またうちの中にもいます、方針等の説明をさせていただいております、区によってはコンシェルジュという言い方をしておりますけれども、その職員おりますので、その職員にも出てもらって区役所の、例えば申し込みの方法ですとか、気になることがあれば、そういう方に聞いていただけたらいいかなと思ってやろうと思っております。

○西岡部会長 今おっしゃった、申し込みいうか希望を何個かいうのは全部書かなだめなんですか。できるなら最高そこまでいく感じ。

○日下保健福祉課担当係長 書かないといけないってことはなくて、最高で第6くらいまでいけますので、中には、逆にもうここしか嫌っていうことで1カ所しか書かない方もいらっしゃいます。そこはやはり保護者さんの考え方だと思いますので、それが悪いとも申し上げませんし、1カ所だとそこがだめだと全く他に、ここあきましたよっていうご案内もございませんので、もう一つか二つ書きはったほうが、枠として広がりますよというご案内はさせていただきますけども。

○西岡部会長 やはりそういったことを広めるという形で、説明会いうかね、来て話をしてもらったらその辺の雰囲気というか、そういうのも少しはわかるかなという

ような形で、知ってもらおうというね。

○日下保健福祉課担当係長 やっぱり園によれば制服つくっているような園もありますし、それによって雰囲気も違うでしょうし、上のお子さんが行ってはるからって選びはる方もいらっしゃると思いますけど、やっぱり中には来はって、幼稚園と保育所の違いもよくわからないんですはじめにどのお子さんで、どこに何があるかもうよくわからないんですっていう方もいらっしゃいますので、なるべくお越しただいて、まだプレパパ、プレママの方にもお越しただいて、聞いていただければ、将来選んでもらうときに参考になるかと思えますので。

○西岡部会長 鶴見区は若い世代の人がいっぱい入ってきている時代なんで、昔からいる人はどこに何があるか大体把握してはるけども、そういうのなかなかどこで聞いたらええんやいうところから始まると思うんで、やっぱりそんなも今からやっていただいたらいいかなと思います。

○猿渡委員 よろしいですか。すみません。子どもの貧困とか虐待の話がございまして、やっぱり今勉強中です。状況でいうと、今勉強中なんですけども、うちの法人の事業として、仕事のほうで、居場所づくりを事業としてやっていくような方向性を、今年度、来年度当たりで計画を立てております。で、まあ手近なところで、そういう活動をやれているところと、手を結んでいこうというところなんですけども、区役所になりますと先ほど出ていました貧困対策チームとかっていう、まあまあ具体的には、窓口がどちらになるのかちょっとお伺いして、何でしょうね、区民サイドの活動の相談とかは、どこに行けばいいのか、また教えていただけたらと思うんですけど。

○松井課長 子育て支援、1階の12番の窓口に来ていただいたら。で、今、居場所づくりということで、それも少しちょっと前に、猿渡委員がされるというのも、ちょっと別方向からちょっとお聞きもしてまして、例えば名前出すとコープとかもね、ちょっと企業とかが居場所づくり入ると、まあ流行の子ども食堂とかいう形でされるとかですね。実際にまた8月から、別の団体がちょっとされるとか、今、そういうこ

とも一応しているけども、ちょっと子どもに特化してやっていこか、とかね。そんなこともいろいろ聞いています。

今私らはその辺のところを全部情報を共有して、こういうところにはこういう形でやっていますよというね、情報発信というのは、私ら区役所の役目かなと思っています。

また、どこまでどう支援できるかどうかっていうのがあるんですけども、今こんな形でやっているんですけどもっていう形で、私らもまだこれ始めたばかりで全然そんな偉そうにこう教えられるとかそんなことはないんですけども、皆さん、鶴見区役所、地域の方、もうみんなと一緒に考えて、対策とかやっていければなと思っているんですけども。はい。

○猿渡委員 アポイントとって行かしていただいたほうがいい感じですか。急に窓口に。

○松井課長 来ていただいてもいいんです。私らがおるかどうかっていう、その辺はあると思うんですけども。

○猿渡委員 はい、ありがとうございます。

虐待で、もう一点だけ。近年、鶴見区内で死亡までいった例ってないですよ。

○貴田子育て支援担当課長代理 26年に1件ありました。直近ではそれが。

○猿渡委員 26年、平成26年ですか。なるほど、わかりました。

批判的な意味ではないので、取り違えをしていただかないほうがええなと思うんですけど、お話を伺っていると、非常にセーフティネットっていわれる、その網の広げ方が、非常に狭いように感じます。それは死亡事由を伺ったのもそういう意味なんですけども、一の命を救うのが虐待の対策の使命であると思うんですね。浅く広くなのかどうか、やはり失われるかもしれない位置の命を早く見つけ出して、なおかつその命を救うっていうのが、最終的な目的じゃなかろうかと。だとするならば、もう先ほど伺った、例えば関係先が、もっともっと広がっていかうとも、多分広げることで、

手間や面倒が増えるのかもしれませんが。それはでも大人の事情であって、クリアになるものであればクリアにさせていただかないと、一の命は多分救えないだろうと。

その関係各所が、どんどんどんどん箇所数が増えていって、ようやくその網目からこぼれる子たちが少なくなっていって、もし今、その26年以降、死亡事由が起きていないということは、すばらしいことなのかもしれないし、たまたまなのかもしれないという、子どもたちの命を支えるものが運であってはならんと僕は思うので、何でしょう、そこは手広く、いろんな、わかりますよ、済みません。いろんな関係各所があって、もちろん小学校、保育園、幼稚園、それから教育機関も恐らくそこには含まれて、警察であったりとか、消防も恐らく、病院とかも全部含まれているんやと思うんですけど、でもこうどこかから、例えば情報提供ってなると、連携がうまくとれてなくてこぼれる情報があってみたりとかってということがいまだにやっぱりあるのかなっていうのはすごく感じるので、その連携、連絡をどうやってとっていくかも含めての課題なんでしょうけど、そこはたくさん関係先があったほうがええなと思いました。はい。以上です。

○貴田子育て支援担当課長代理 すみません。先ほど関係機関って聞かれたときに、児童虐待のところで、きっちり答えられなかったのが、申しわけありません。今、言っていたいただきましたように、児童虐待に関しての関係機関ということで、要保護児童対策地域協議会というのを区役所が事務局でもっておりまして、そこに区内の医師会でありますとか、歯科医師会でありますとか、また警察もそうですし、社会福祉協議会もそうですし、中学校、小学校、保育所、幼稚園っていうふうな、子どもに関するありとあらゆる機関の方に入らせていただきまして、児童虐待に対してやっていこうということで、そこにはもちろん民生委員さんも入っていますし、主任児童委員さんにも入らせていただいて、というような形での大きな会を一つもっています。そこではこういうふうな、鶴見区の現状とかを皆さん、代表の方にお伝えさしてもらって、それぞれの団体のほうに広めていっていただくというようなこともやっておりますし、実

務者同士が集まったの会議というのも毎月開いて、その子どもたちをどうしていくか、
どういうふうな形で支援をしていくのがいいのかっていうようなことに関しても協議
させていただいています。

もちろん、対策をしているから十分やという思いは全然持ってませんで、おっしゃ
られたように、一つの命が失われることがないように、ということで子育て支援室の
ほうでも対策をさせていただいています。ただ、本当に、どれだけ頑張っても一つの
命が失われてしまったら、もうそのやってきた意味がないと思っていまして、いかに
子どもたちのためになるのかということで、日々取組みをさせていただいております。

ただ、児童虐待に関しては情報提供をいかにもらえるかっていうところも、すごく
大切なことだというふうに考えていますので、それについて皆さんのほうへの情報提
供というふうな形について、啓発活動を行っていきまして、そういうふうなところで、
先ほど言っていましたみたいに、地域のお店ですとか、各病院とかにもチラシとかを置
いてもらったり、ポスターを貼ってもらったりということで、少しでも皆さんの目に
とめていただいて、その多くの目で、子どもたちのことを見守ってもらえるような区
にしていけたらいいなというふうな思いで、今、区役所としても当たらせていただい
ております。何かうまくまとめられなくて申しわけありません。

○西岡部会長　情報というのはね、一方的に出しても、出すだけになってくるんで、
やっぱり出すことによって入ってくる情報というのはかなりあると思うんで、これは
結果としてどうなるのかいうのはなかなか、数字的に出すのは無理な問題だと思うん
ですけども、やっぱり役所としては役所なりの、出せば、普通の一般の人からとか、
そういう代表の人からじゃなしでも、情報というのは入ってくる可能性というのを探
していただいたら、先ほどおっしゃったように、1人の子どものそういう悲しいこと
が消えるんじゃないかと。いえば虐待にもいろいろあると思いますんでね、その中の
命までいうのは、やはりその親御さんも、まあこんな言い方したらあれなんかもし
れないですけども、ふだんからやっぱり普通ではないような状態になってはることも

あると思うんでね。そんなんもやっぱり入ってくる可能性として、少しでも窓口を広げてやっていただきたいなど、今後も思いますんで。

あと何かございますか。

○真鍋副部長 児童虐待もそうですけども、高齢者の虐待とかも一緒と考えていいですかね。で、そういう見かけたり見つけたりしたときに、まずは民生委員さんとかに報告でいいんですかね、考え方としたら。

○西岡部長 考え方としては民生委員さんでも役所でも、どちらでも。とりあえずどこでも連絡してもらったら、回ると言ったらおかしいですけども、そういう形になっているんで。

○嶋原保健福祉課長 すみません、高齢者支援担当の保健福祉課長の嶋原です、高齢者の関係ということなので。部会長から言ってもらったように、どこか関係先に連絡していただいたらよいかと思います。民生委員さんもそうですし、区役所もそうですし、区社協さんや、地域包括支援センターとか、高齢者の相談する窓口がありますので、どこかに伝えてもらったら必ず、連携もとらせてもらえるかと思います。

○真鍋副部長 レベルやないんですけども、あそこのおばあちゃんよく怒られているとか、子どもがよう泣いているとか、その辺のレベル的って言うたらおかしいですけども、ちょっと気になったら連絡入れたほうがいいんですかね、やっぱり。

○嶋原保健福祉課長 区役所のほうでも結構です。地域のほうでも、つなげ隊の方々がおられたりしますので、そちらのほうにご連絡してもらってもいいですし、また何か気になることがあったら、そこからまた関係先に連絡が入りますので。

○西岡部長 そういうところでやっぱり、包括は包括で情報をもっているんで、あつというのめかなり出てくると思うので。

そうしましたらよろしいでしょうか。そうしましたら、本日出された意見について取りまとめた上で、次回の全体会で、私のほうから部会報告をさせていただくという形でもよろしくお願いいたします。それでは、次に議題3、そのほかについての事務局

から何かございますでしょうか。

○石川区政企画担当係長 区政企画担当の石川と申します。私のほうから、区政会議の次期委員の募集についてご報告をさせていただきたいと思います。ご存じのとおり、現在の委員の皆様は任期は公募委員の方も含めまして、本年の9月30日までとなっております。つきましては、次期区政会議につきましても、区政会議委員の募集を行ってまいりたいと考えております。本日、募集要項、A3のものをおつけさせていただいておりますが、委員の募集期間につきましては、来月7月1日から31日までの間となっております。詳細につきましてはそちらのパンフレットをご覧くださいと存じます。

私からの報告は以上です。

○西岡部会長 ほか、ございますか。

○杉本地域活動支援課担当係長 今の質問は特によろしいですか。

○西岡部会長 質問ございますか。

○真鍋副部会長 これ、任期なんですけど、やっぱり10月スタートになるんですかね。予算の関係とかいろいろあって。

○田中子ども・教育担当課長 10月スタートです。

○真鍋副部会長 10月スタートなんですね。4月スタートにならないんですね。地域の2年周期みたいなものにはならないんですね。

○田中子ども・教育担当課長 あくまで10月～9月末の形でまた。

○西岡部会長 よろしいでしょうか。ご質問等ございませんか。

それでは、本日予定されている議題は全て終了いたしました。皆様の活発なご意見ありがとうございました。

最後に、事務局から連絡事項ございますでしょうか。

○杉本地域活動支援課担当係長 本日も多くの貴重なご意見いただきまして、ありがとうございました。それでは、先ほど議題の中でもご説明させていただいたんです

が、委員評価シートについて再度確認させていただきます。

本日お配りいたしました委員評価シートにつきましては、各具体的取り組みについて、おわかりになる範囲で結構ですので評価をつけていただき、ご提出をお願いしたいと思います。ご提出期限ですが、お忙しいところ恐縮なんです、7月10日の月曜日までをお願いいたします。評価シートにつきましては、明日、メールでも送信させていただきますので、ご提出はメールでも結構です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、重ねてのお願いで恐縮でございますが、本日委員評価シートとは別に、A4 1枚もので、平成28年度区政会議に関するアンケートをお配りさせていただいております。こちらにつきましてもご協力をお願いいたします。ご提出は、本日も後日評価シートとあわせてでも結構でございます。

最後に、次回の会議の予定でございますが、第1回全体会を7月中旬に開催させていただきます。全体会では、ほかの部会の自己評価につきましても、広くご意見を賜りたいと考えておりますので、お忙しいとは存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。また、本日、全体会の日程調整表について、お配りさせていただいております。こちらにつきましては、現時点でわかる範囲で結構でございますので、ご記入いただき、お帰りの際ご提出いただきたいと思います。日程が決まり次第、メールあるいは電話にてご連絡させていただきます。

事務局からは以上でございます。

○西岡部会長 ありがとうございました。それでは、本日の鶴見区区政会議第1回こども教育部会を閉会とさせていただきます。

どうも皆さん、長時間ありがとうございました。

閉会 20時22分